

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 30 日作成)

委員会名	地域共生小委員会	主 査 名：糸長浩司
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>都市及び農村を含む地域でのサステナブル地域づくりに関する内外の計画・デザインに関する情報交換を進める。その上で下記の活動目的を持って活動する。</p> <p>①持続可能な都市・農村地域デザインの提言づくり ②地域共生デザインに関する公開研究会の連続開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>糸長浩司 (日本大学)、木下勇 (千葉大学)、宮田裕介 (地域環境プランニング (有))、石丸紀興 (広島国際大学)、齊木崇人 (神戸芸術工科大学)、高口洋人 (九州大学)、地井昭夫 (広島国際大学)、デワンカーバート (北九州市立大学)、波多野憲男 (四日市大学)、服部圭郎 (明治学院大学)、藤沢直樹 (日本大学)、村上佳代 (早稲田大学)、横張真 (筑波大学)、笠真希 (早稲田大学芸術学校)、渡和由 (筑波大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2003 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>研究会：2004 年 6 月 11 日 (7 人)、12 月 13 日 (8 人)、2005 年 2 月 10 日 (6 人)、公開研究会：</p> <p>①2004 年 6 月 11 日：サステナブルシティ／ブラジル・クリチバの実践、講師 服部圭郎 (明治学院大学)、参加 15 人</p> <p>②2004 年 12 月 13 日 (火)：ロンドンのエコビレッジ・プロジェクトーゼロエネルギー団地・Bed ZED-1、講師 ニコール・ラザラス女史、参加 73 人</p> <p>③2004 年 12 月 21 日 (火)：エコマネーの展開と展望、講師 マルグリット・ケネディ女史 (独、建築家)、参加 30 人</p> <p>④共催 (環境工学環境工学委員会都市環境・都市設備小委員会)、2005 年 3 月 15 日：サスティナブルな都市づくりと地域エネルギーシステム～都市環境工学と都市計画・地域計画の連携～、糸長浩司主査パネラー参加、参加者 40 名程度</p> <p>⑤大会時の PD 企画運営 (サステナブルシティ・リージョン) / サステナブルシティWG との共同</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>公開研究会では、クリチバからは都市計画と政策の一体化と継続性、交通体系と土地利用計画の一体化、公共施設空間の維持管理の長期的課題、ロンドンエコビレッジからは、環境配慮型のエコ団地は不動産市場からの十分に成立するシステム開発の可能性、及び、ドイツの事例からは、ソフトな地域通貨等のコミュニティ経済社会システムの重要性が指摘できた。また、共催での、地域エネルギーシステムに関しては、建築、地域計画研究者がより積極的にエネルギーの地産地消費戦略に総合的に取り組む緊急性が指摘できた。大会時 PD では、サステナブルシティ・リージョンの学会提言案の課題が明確となった。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>サステナブルシティ・リージョンの学会提言案作成のための条件づくりに寄与した。また、世界的先進事例を会員に提供できた。</p>
その他評価すべき事項	<p>公開研究会の実施で、建築学会の会員だけでなく、環境系の NPO 法人との協力により、都市、地域でのサステナビリティに関する課題や展望の交流ができた。</p>